

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大信精機株式会社 北工場増築工事	階数	地上3F
建設地	愛知県常滑市久米字御林305-1他16筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域内、防火指定なし	平均居住人員	214 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年4月 予定	評価の実施日	2016年9月28日
敷地面積	11,521 m ²	作成者	水野 徹
建築面積	5,057 m ²	確認日	2016年9月28日
延床面積	10,683 m ²	確認者	水野 徹



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

標準値 BEE=1.0

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 82%

③上記+②以外の 82%

④上記+ 82%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 2.7**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.7

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.4**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.7</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>2.1 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	2.1 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	2.1 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

みんなの環境活動を応援しています
モリトキ 2016

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
1 耐震性								
2 免震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								
2.4 信頼性								
1 空調・換気設備								
2 給排水・衛生設備								
3 電気設備								
4 機械・配管支持方法								
5 通信・情報設備								
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり								
1 階高のゆとり								
2 空間の形状・自由さ								
3.2 荷重のゆとり								
3.3 設備の更新性								
1 空調配管の更新性								
2 給排水管の更新性								
3 電気配線の更新性								
4 通信配線の更新性								
5 設備機器の更新性								
6 バックアップスペースの確保								

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数					
						Q3 室外環境(敷地内)		-	0.38	-
1 生物環境の保全と創出	独自③	1.0	0.30							1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④	2.0	0.40							2.0
3 地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30							2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④	2.0	0.50							
3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50							
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	-	-	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.71	4.0	0.07						4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.26						3.0
3 設備システムの高効率化			4.0	0.40						4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI _m =0.76	4.0	1.00						
集合住宅の評価(3c)										
4 効率的運用			3.5	0.27						3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00						
4.1 モニタリング		計測システムで使用量を把握・分析を行い、妥当性を確認でき	4.0	0.50						
4.2 運用管理体制			3.0	0.50						
集合住宅の評価										
4.1 モニタリング										
4.2 運用管理体制										
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	-	-	-	-	3.3
1 水資源保護			3.4	0.15						3.4
1.1 節水		自動水栓のほか、節水型便器を使用している。	4.0	0.40						
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60						
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67						
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33						
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.63						3.4
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.07						
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.25						
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.21						
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	② 独自	ビニルシート床材(サンゲツ:エスリウムミスト)	3.0	0.21						
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-						
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	LGS+ボードなど解体時に分別しやすい工法とし、OAフロアを使	5.0	0.25						
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22						3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32						
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68						
1 消火剤			-	-						
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50						
3 冷媒			3.0	0.50						
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	-	-	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2概算値:82%	3.7	0.33					3.7
2 地域環境への配慮				2.8	0.33					2.8
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25					
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50					
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.5	0.25					
1 雨水排水負荷低減	独自		3.0	0.25						
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25						
3 交通負荷抑制	独自		2.0	0.25						
4 廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25						
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33					3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40					
1 騒音	独自		3.0	0.33						
2 振動	独自		3.0	0.33						
3 悪臭			3.0	0.33						
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40					
1 風害の抑制			3.0	0.70						
2 砂塵の抑制										
3 日照障害の抑制			3.0	0.30						
3.3 光害の抑制				3.7	0.20					
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害ガイドラインのうち一部を満たし、屋外広告物は過半を満た	4.0	0.70						
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30						

重点項目スコアシート

大信精機株式会社 北工場増築工事

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
② 資源の有効活用				3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11	外構緑化:2.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	市街化調整区域内に建つ自動車部品工場として、建築物の環境品質を高めると同時に、周辺地域への環境負荷を低くするよう計画している。
Q1 室内環境	①マルチエアコンによりゾーン制御可能。 ②事務室の昼光率=7.9%、照度=500lx。 ③ほぼ全体的にF☆☆☆☆を使用している。 ④窓面積が居室面積の1/15以上を確保している。 ⑤喫煙室を配置し、分煙している。
Q2 サービス性能	①事務室の天井高さ=2.8mを確保し、十分な広さのリフレッシュルームを確保。 ②床:ビニルシート(20)、壁:ビニルクロス(20)、天井:ビニルクロス(30) ③給水管:SUS(C)、給湯管:SUS(C)、污水管VP(B)、Eは不使用。 ④建物全体の壁長さ比率=0.08 ⑤積載荷重は4500N/m ² 以上としている。 ⑥配線にはPF管を使用し、更新時に仕上げを傷めない。
Q3 室外環境(敷地内)	①空地率=54.62% ②防犯システムを設置している。
LR1 エネルギー	①BPI _m =0.72、BEI _m =0.76 ②計測システムで使用量を把握・分析を行い、妥当性を確認できる。
LR2 資源・マテリアル	①自動水栓のほか、節水型便器を使用している。 ②リサイクル可能なビニル床材を使用している。 ③LGS+ボードなど解体時に分別しやすい工法とし、OAフロアを使用。
LR3 敷地外環境	①ライフサイクルCO ₂ 排出率=82% ②光害ガイドラインのうち一部を満たし、屋外広告物は過半を満たす。
その他	